

書名 『罪の声』	著者 塩田武士 出版年 2016年 出版社 講談社
<p>1980年代半ばに発生した「グリコ・森永事件」に題材を得て、実際に新聞記者経験のある著者が描いています。「かい人 21 面相」を名乗る犯行グループが食品会社 6 社を次々に脅迫。「どくいり きけん たべたら しめで」という脅し文句とともに、青酸ソーダ入り菓子をばら撒くという手口で世間を震撼させました。事件の再取材を命じられた新聞記者と、自分の子供の頃の声が事件に使われたと気づいた青年の二人が真実に迫る姿を、とてもフィクションとは思えないほど生々しい描写に溢れており、読み進むうち、いつしか現実と虚構が溶け合うような感覚に陥ってしまいます。綿密な取材の上、着想後 15 年を経て描かれた、著者渾身の長編小説。</p>	